2026 年 11 月 25 日

報道関係者各位

三井不動産株式会社

柏の葉の研究･臨床機関の集積を生かし、創薬事業の創出支援を本格化
三井不動産、Alloy Therapeutics、RealizeEdge Partners と新体制を構築
～次世代 CSO（最高科学責任者）人材育成プログラムの参加者募集を開始～

本リリースのポイント

- 三井不動産は多様な研究･産業機能が集積する柏の葉エリアにおいて、創薬技術や事業化支援に豊富な知見･経験を持つ Alloy Therapeutics および RealizeEdge Partners と連携し、シーズの評価から開発戦略、臨床開発、製造、資金調達、製薬企業との連携までを一貫して支援。
- 具体的な取り組みとして、創薬事業化を担う人材を発掘･育成する「次世代 CSO（最高科学責任者）人材育成プログラム」を 2027 年1月から開始し、参加者募集を開始。
- 本取り組みにより、柏の葉から新たな創薬スタートアップが継続的に生まれ育つ環境の実現を目指す。

三井不動産株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：植田俊、以下「三井不動産」）は、厚生労働省の「革新的医薬品等実用化支援基金 創薬クラスターキャンパス整備事業※」に採択されました。

本採択を受け、新たな領域の社会実装･検証の場である柏の葉ライフサイエンスフロンティアにおいて、グローバルな創薬技術や事業創出の知見を有する Alloy Therapeutics 株式会社（以下、「Alloy Therapeutics」）および大手製薬企業での研究開発･事業開発経験を持つ専門人材が参画する株式会社 RealizeEdge Partners（以下、「RealizeEdge Partners」）と連携し、大学や研究機関などから生まれる創薬シーズや創薬スタートアップの事業を双方の強みを活かして支援する新体制「Kashiwa-no-ha BioBridge」（以下「BioBridge」）を構築します。

優れた研究成果を医薬品として患者に届けるためには、事業開発戦略、薬事･製品戦略や資金調達など、各段階で高度な専門知識や多様なパートナーとの連携が必要です。しかし、アカデミアの研究者や創薬スタートアップが、こうした機能を単独で確保することは容易ではありません。

柏の葉においては、東京大学、千葉大学、国立がん研究センター東病院等のアカデミア、三井リンクラボ等の研究開発施設、製薬･バイオ企業やスタートアップなど、多様な研究･産業機能が集積しており、また、産学官医の関係者が参画する柏の葉ライフサイエンス協議会を中心に、研究領域の連携も進んでいます。こうした研究･産業機能の集積や連携を、個々の創薬プロジェクトの事業化へとつなげるためには、専門的な知見やノウハウを活用した支援機能をさらに強化することが求められています。

そこで今回、柏の葉ライフサイエンスフロンティアでこれまでに整備してきた基盤をさらに発展させ、Alloy Therapeutics、RealizeEdge Partners とともに、個々の創薬プロジェクトの事業化を支援する体制を構築します。

本体制の構築により、柏の葉から新たな創薬スタートアップが継続的に生まれ育つ環境の実現を目指します。



※革新的医薬品等実用化支援基金創薬クラスターキャンパス整備事業：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_59557.html

■Kashiwa-no-ha BioBridge について

BioBridge では、柏の葉に集積する研究・臨床・産業機能と、Alloy Therapeutics および RealizeEdge Partners が有する創薬技術や事業化支援の専門性を生かし、創薬シーズやスタートアップの事業化を支援します。

具体的には、創薬人材や有望な創薬シーズの発掘・育成に加え、案件ごとに専門家チーム「Task Resolution Team(TRT)」を組成し、研究開発戦略の策定、臨床開発、製造、資金調達等の課題解決に向けて伴走します。

■第1弾として、創薬事業化を担う人材を発掘・育成する「次世代 CSO 人材育成プログラム」を開始

BioBridge は、創薬事業を牽引する CSO(Chief Scientific Officer:最高科学責任者)の育成を目的とした 9 週間の実践型育成プログラムを 2027 年 1 月より開始します。また、本プログラムの参加者募集を開始しました。

優れた研究成果を実用化するためには、科学的な専門性に加え、対象となる患者や医療現場のニーズを捉え、既存治療との差別化や市場性を踏まえながら、研究開発から臨床開発、事業化までを見据えた戦略を描く力が求められます。

本プログラムでは、自らの研究成果の事業化を目指す研究者に加え、将来的に創薬スタートアップの CSO 等として事業創出に携わる意欲を持つ研究者・企業人材を対象に、創薬事業化に必要な知識と実践的な能力の習得を支援します。

具体的には、Alloy Therapeutics および RealizeEdge Partners が有する創薬研究開発やスタートアップ創出の知見を活用し、Target Product Profile(目標製品プロファイル)の策定等に取り組みます。対象患者、既存治療との差別化、市場・競争環境等を整理し、目指す医薬品像を明確にしたうえで、事業化・実用化から逆算した研究開発戦略を検討します。AI 等も活用しながら、グローバルな医薬品開発を見据えた実践的な学びの機会を提供します。

さらに、プログラム終了後も、有望な人材や創薬プロジェクトについては、BioBridge を通じた継続的な支援を検討します。必要に応じて経営人材とのマッチングや、非臨床試験、製造、薬事、臨床開発、事業開発、資金調達等の専門的な支援につなげることで、具体的な事業創出を目指します。

※本プログラムの詳細について: https://www.kashiwanoha-smartcity.com/info/events/64/

■柏の葉ライフサイエンスフロンティアについて

柏の葉ライフサイエンスフロンティアは、国立がん研究センター東病院、東京大学、千葉大学をはじめとする、アカデミア・医療機関や三井リンクラボ柏の葉等の研究開発施設、製薬・バイオ企業、スタートアップ等が集積するライフサイエンスクラスターです。2022 年には、地域の産学官医の関係者が参画する「柏の葉ライフサイエンス協議会」を設立。臨床、研究開発、事業化、企業誘致、人材交流等の取り組みを進めています。近年では、再生医療・細胞治療をはじめとする先端モダリティ領域における企業・研究開発機能の集積も進んでいます。

参考:LIFE SCIENCE ライフサイエンス | 柏の葉スマートシティ

■関係者からのコメント

Alloy Therapeutics 株式会社　代表取締役社長　石井 喜英



日本には世界に通用する優れた研究成果や創薬技術が数多く存在しています。一方、それらを実際の医薬品開発や事業化につなげるためには、研究の早い段階から、創薬技術、開発戦略、事業化に向けた専門人材を組み合わせていくことが重要です。

Alloy は、グローバルに展開する創薬プラットフォームや、ベンチャースタジオを通じて培ってきた事業創出の知見・ネットワークを活かし、日本発の優れた研究成果の事業化に貢献したいと考えています。本プログラムを通じて、研究者だけでなく、将来 CSO として創薬事業を牽引する人材が育ち、柏の葉から世界につながる新たな創薬スタートアップが生まれることを期待しています。

株式会社 RealizeEdge Partners　代表取締役社長　志鷹 義嗣



優れた研究成果を革新的な医薬品として患者さんに届けるためには、サイエンスの力に加え、医薬品としての製品像を描き、研究開発戦略を立案し、事業化に向けて実行していく力が不可欠です。日本では、優れた創薬シーズが存在する一方、それらを事業へと育てる専門人材や実践的な支援体制が十分とはいえません。

RealizeEdge Partners は、製薬企業での研究開発・事業開発等の経験を持つ専門家が集まり、研究成果の事業化を実践的に支援するスタートアップスタジオです。本プログラムを、研究者や CSO 候補となる人材が創薬事業化に必要な視点を身につけ、具体的な事業創出へと踏み出す機会にしていきたいと考えています。柏の葉・つくば等エリアに集積する研究機関や産業界の力と連携し、世界で競争力を持つ創薬スタートアップの創出につなげていきます。

■賛同コメント

柏の葉ライフサイエンス協議会会長　土井 俊彦



本プログラムは、研究者に加え、創薬事業化を牽引する CSO 等の人材の発掘・育成を通じて、アカデミアの研究成果を実際の事業創出へとつなげる取り組みとして、大きな意義を持つものと考えています。柏の葉には、国立がん研究センター東病院をはじめ、多様な研究機関や企業が集積しています。こうした地域の強みを活かしながら、産学の連携が一層深まり、柏の葉から世界に通用する創薬スタートアップが生まれることを期待しています。

※柏の葉ライフサイエンス協議会とは：柏の葉エリアの公民学で組成される、ライフサイエンスクラスターの形成を目的とした組織体。

■Alloy Therapeutics 株式会社について

https://alloytx.com/

Alloy Therapeutics は、米国ボストン近郊を拠点とし、最先端の創薬技術や研究開発サービスの提供、スタートアップの創出を通じて、革新的な医薬品開発を支援するバイオテクノロジー企業です。抗体、遺伝子医薬、細胞治療など幅広い領域において独自の創薬プラットフォームを展開し、世界各国のアカデミア、バイオベンチャー、製薬企業との連携を推進しています。また、ベンチャースタジオ「82VS」を通じて、創薬スタートアップの設立・育成にも取り組んでいます。日本では、湘南ヘルスイノベーションパーク内に拠点を設け、日本の優れた研究成果とグローバルな創薬エコシステムをつなぐ活動を展開しています。

■株式会社 RealizeEdge Partners について

https://realizeedge.com/

RealizeEdge Partners(R-Edge)は、優れた創薬シーズの事業化とスタートアップ創出を支援する、2025 年設立のスタートアップスタジオです。大手製薬企業等で豊富な研究開発・事業開発経験を有する専門家が中心となり、創薬シーズの科学的評価、Target Product Profile(目標製品プロファイル)の策定、研究開発戦略、知的財産戦略、資金調達、事業化に向けた体制構築まで、実践的なハンズオン支援を提供しています。三井不動産および LINK-J とも戦略的に連携し、国内の優れた研究成果を世界に通用する医薬品・事業へとつなげることを目指しています。

■三井不動産株式会社について

https://www.mitsuifudosan.co.jp/

三井不動産は、社会・経済のパラダイムの転換期において、「場」や「コミュニティ」を提供する「プラットフォーマー」として、企業や社会、それを構成する人々の英知を結集させ、新産業に貢献してまいりました。2024 年 4 月には新グループ長期経営方針のもと、不動産領域を超えた新領域の探索を事業戦略に掲げイノベーション推進本部を新設し、イノベーション創出や新産業創造への貢献に向けた取り組みを行っています。柏の葉スマートシティでは公民学で連携し、生涯健康で暮らせるエリア、新たな医療産業が生まれ育つエリアの実現を目指し、事業活動を展開しています。

■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「＆マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。
2024 年 4 月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY（重点的に取り組む課題）」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ＆インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】
・「グループ長期経営方針」
https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/
・「グループマテリアリティ」
https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/